

国際学会実施報告書

SCOS/ACSCOS Conference 2018

The 36th Standing Conference on Organisational Symbolism and Australasian
Caucus of Standing Conference on Organisational Symbolism 2018

2018年8月17-20日

於 明治大学駿河台キャンパス

The conference website : <http://scos2018.org>

主催者

高橋正泰(明治大学経営学部専任教授)

中西 晶(明治大学経営学部専任教授)

四本雅人(長崎県立大学経営学部専任准教授)

高木俊雄(昭和女子大学グローバルビジネス学部専任准教授)

Carl Rhodes (University of Technology Sydney, Austrakia)

Janet Sayers (Massey University, Auckland, New Zealand)

Thomas Lennerfors (Uppsala University, Sweden)

統一テーマ

Wabi-sabi (侘寂): Imperfection, incompleteness and impermanence in
organizational life

基調講演

Mats Alvesson (Professor of Organization Studies, Lund University)

“Doing interesting research and having something to say (outside the academic
micro-tribe)”

Michael Lazarin (龍谷大学名誉教授・文学部)

“Making Progress in a Culture of Evanescence”

概要

The Standing Conference on Organizational Symbolism (SCOS)は1981年に The European Group for Organizational Studies(EGOS)から分かれた国際学会として主にヨーロッパ、オーストラリア、アメリカ合衆国の組織論研究者の研究の場となっているもので、延べ800名の学会員で構成されています。このSCOSはヨーロッパを中心として開催されている国際学会であり、SCOSのオーストラリア、ニュージーランドを中心とした Australasian Caucus of Standing Conference on Organisational Symbolism (ACSCOS)との共催で始めてヨーロッパ以外での開催を2018年8月17日(金)から8月20日(月)の4

日間にわたり明治大学で行われた。

今回の日本での開催では、参加者が 125 名、107 本の研究報告であった。参加者の内訳は、ヨーロッパから 72 名、オーストラリアから 5 名、ニュージーランドから 5 名、アメリカから 1 名、日本を含まないアジア 1 名、南米から 4 名、日本から 27 名、その他の地域からは 10 名であった。

基調講演者としてはルンド大学の Mats Alvesson 教授および龍谷大学の Michael Lazarin 教授をお招きして基調講演がなされた。

また、同時に ACSCOS と同様に SCOS の日本での研究の発展を図るため The Japanese Standing Conference on Organizational Symbolism が設立された。それはヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、そしてニュージーランドの研究者と連携して、アジアでの今後の組織文化や組織シンボリズム、そして質的研究・量的研究や科学哲学を含むメソドロジーの研究拠点として設立されたものがある。

開催内容

本学会では 2 本の基調講演、107 本の口頭発表、JSCOS によるメソドロジーに関するシンポジウムが行われた。本大会では、日本開催にふさわしく、また海外で関心を持たれている日本文化の象徴でもある「侘寂」を統一テーマとして開催された。

基調講演は、JSCOS との共催で組織シンボリズム、ポストとモダニズム、そしてクリティカルマネジメント・スタディ(CMS)の著名で代表的研究者であるマッツ・アルベッソン(Mats Alvesson)氏(ルンド大学教授、スウェーデン)、そして日本の文化に精通しているマイケル・ラザリン(Michael Lazarin)氏(龍谷大学名誉教授)によって行われた。マッツ・アルベッソン氏の基調講演は、彼の最近の著書である Return to Meaning: For a Social Science with Something to Say (Oxford University Press, W. Y. Gabriel and R. Paulsen) and Constructing Research Questions. Doing Interesting Research (Sage, with J. Sandberg) の内容を中心として、学術研究に関する講演であった。また、マイケル・ラザリン氏による基調講演は日本文化についての紹介や解説を含んだ統一テーマである「侘寂」を中心とした講演であった。

口頭発表では、Embodiment-Forms, The imperfect employee, Imperfection in Organizational Life, Wabi-Sabi learning, Wabi-Sabi Management, Japanese Concepts, Imperfection, Workshop, Open Stream などのテーマ別に 107 の研究報告がなされた。

開催成果

明治大学における本学会開催は、これまでヨーロッパにおいて開催されてきた SCOS がはじめてヨーロッパ以外、それもアジアにおける日本での開催となった意義は、組織研究において国際的な研究の広がりや日本から発信したということに大きな意義を有している。第 1 はヨーロッパの組織研究者が日本文化への高い関心を持ってくれたこと、第 2 に日本

では組織研究では主流となっているアメリカを中心とした研究に対して、多くの異なったパースペクティブが展開されているヨーロッパの組織研究者との親密な交流を果たせたこと、第 3 に日本を含むアジアにおける組織の文化領域での研究成果をアピールすることが出来たことである。

また、この大会を契機として日本における SCOS の草分けとした JSCOS が設立され、日本における今後の組織シンボリズムを中心とした質的研究、メソドロジーの研究を展開する基盤を創れたことである。